

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	額娃おこそ会
役職	
氏名	原本太郎
着任日	令和3年4月1日

活動月	令和4年7月（着任1年4ヶ月）
主な活動	1. 番所鼻公園でのイベントの開催 2. 研修参加・視察

1. 番所鼻公園でのイベントの開催

番所鼻公園でのキッチンカーイベント「絶景ごはん」の13回目を7/30-31に開催しました。今回は、絶景ごはんを始めて1周年ということで、2日間開催としました。当日は台風が付近を通過していたこともあり、風の強い中での開催、初日は一時風雨という悪条件の中での開催となり、夏休み期間ではありましたが、先月や前年より少ない客足となりました。

今回はSNS告知と、地元向けには水成川地区の集落放送での案内をしましたが、やはり天候がかなり影響することを改めて実感しました。今後は1年間の経験を踏まえながら、より効果的な開催に繋げていきたいと思います。

また、ファーマーズマーケット「AGRIBITS」の7回目が7/10に開催されました。引き続き、イベントの定着に向けて連携していきたいと思います。



2. 研修参加・視察

また、今月は研修プログラムのローカルベンチャーラボで、東海地域と北海道に視察研修に行きました。

名古屋での民間によるパークマネジメントの事例として、久屋大通公園や名城公園では、他種多様な店舗、公園と一体的な店舗テラス空間や地下道との接続などの空間づくり、公

地域おこし協力隊活動報告書

園内でのバス BAR と BBQ、卓球台、ビアフェスの開催などの楽しめるたくさんのコンテンツ、建築・ランドスケープ・看板など、一貫性のある洗練されたデザインなど、これまでの公園では実現しにくかった運営がなされていました。



三重県尾鷲では、森を活用した尾鷲ヒノキの林業促進、遊べる森づくり、脱炭素の取り組み、環境リテラシーを高める教育など、行政と民間が連携しながら、多角的なプロジェクトとして展開していました。また、農家さんを中心とした、カフェ・キャンプ・アクティビティなどのこれらの事業展開についても紹介してもらい、番所鼻公園での取り組みにも参考になりました。



北海道では、豊かな自然や食などの地域資源を活用した事業づくりと、それぞれの事業者同士の連携、移住促進や地域おこし協力隊の制度運用、公民連携による取り組みなど、様々な学びを得られました。特に移住者がまちや人とどのように交わりながら、自分のやりたいことや生業を実現していくか、また、自然とどう向き合いながら、それを活かして、訪れた人を楽しんでもらうか、などの大事な視点を改めて実感しました。



地域おこし協力隊活動報告書

今回の学びは、今後公園での森や海を活用した事業展開や関係人口の拡大などの取り組みに繋がっていきたいと思います。

■ SNS

□ 番所鼻自然公園



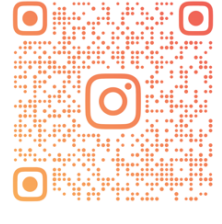
BANDOKOROBANA_PARK

Facebook ▶ 「番所鼻自然公園」

Instagram ▶ @Bandokorobana_Park

@agribits_farmersmarket

□ ふれあい瀬平公園



EIFAISEBIRAKOUEEN

Facebook ▶ 「颯娃ふれあい瀬平公園」

Instagram ▶ @eifureaisebirakouen

▼ 番所鼻自然公園での取り組みについて（2021 年度活動報告動画）

https://www.youtube.com/watch?v=_XwIhNZWJfw